

## 占領期の翻訳絵本

絵本の翻訳を考える / 『たぐさんのお月さま』

石川 晴子

(大阪樟蔭女子大学・非常勤講師)

目的： 1949年から52年の被占領期に刊行されたアメリカの絵本の翻訳のなかに『たぐさんのお月さま』があった。これは占領した側の連合軍司令部GHQ/SCAPの下部組織であるCIEが、入札制度によって翻訳出版を許可した本の一冊であった。その後、1994年までに少なくとも4種のこの絵本の翻訳が出ている。そのうちの3冊は同一の訳者と画家の手になるものであるが、本としては異なっている。これらの5冊の本には、翻訳の諸相が見られると同時に、絵本の特徴を考えるうえでの問題が提示されている。1冊の絵本の翻訳を通して現代の日本における絵本の翻訳について考えてみたい。

検証の対象： 1944年に前年度に出版された絵本のうちでもっとも優秀である選定され、コルデコット賞を受賞した次の絵本を取り上げる。

MANY MOON

written by JAMES THURBER

illustrated by LOUIS SLOBODKIN

published by HARCOURT Sep., 1943, (1970), \$ 2.00

Format

Size: 25.5 × 23.0 cm 47pp.

Artist's Medium: Color separations for line and halftone reproduction

Printing Process; Offset lithography

Illustrations: Front matter, full pages and half pages in three and four colors

Type: Estienne

『たぐさんのお月さま』翻訳本 5種

1. ジェームズ・サーバー作 ルイス・スロボドキン画 光吉夏弥訳 日米出版社  
昭和29年12月5日初版 (1949)  
昭和25年12月5日再版 (1950) 定価160円  
21×18.8cm 47pp. 右開き縦書き  
「日本翻訳権所有」 底本記載あり
2. ジェームズ・サーバー作 宇野亜喜良画 (長新太画) 今江祥智訳 学習研究社  
(「あたらしい世界の童話シリーズ 9」)  
昭和40年11月10日 (初版) (1965)  
昭和43年6月1日 (9版) (1968) 定価380円

22.6×15.5cm 42pp. 縦書き右開き

図版： 1頁大12図 カット8図 黒・線画  
底本、著作権に関する記載なし

3. ジェームズ・サーバー作 宇野亜喜良画  
今江祥智訳 サンリオ出版

1976年6月30日 (初版) 定価650円

19.5×12.1cm 59. pp. 横書き左開き

図版： 見開き9図 1頁大16図 カット8図  
2色および4色

底本、著作権に関する記載なし

4. ジェームズ・サーバー作 宇野亜喜良画  
今江祥智訳 ブックローン出版

1989年10月1日 (初版) 定価1359円+税

22.0×21.0cm 39pp. 横書き左開き

図版： 1頁大18図 カット18図 4色

底本、著作権に関する記載なし

5. ジェームズ・サーバー文 ルイス・スロボドキン画  
中川千尋訳 徳間書店

1994年5月31日 (初版) 定価 円

25.5×22.5cm 47pp. 横書き左開き

図版： 1頁大18図 半頁大18図 3,4色

底本、著作権に関する記載あり

翻訳方法を見る：

1. 光吉夏弥生訳 日米出版社 1949年  
本の体裁、図柄すべて原書を再現  
ただし、形態は縦横とも4.5 cm縮小されている。  
テキストと図との対応は原書をほぼ再現している。  
日本語のテキストは原文の内容を忠実に変えることなく簡潔なことばで表現している。
2. 今江祥智訳 宇野亜喜良画 学習研究社 1965年  
絵は宇野による。原書とは雰囲気が大きく異なる。  
絵本でなく短篇集のなかの一編の絵物語である。  
日本語のテキストは、原文の内容、展開の順序に忠実に訳されているが、訳者自身が「痛烈な風刺がこめられている」(「解説」P.156)というように軽妙洒落でユーモアを感じさせつつ、大人たちの愚かしさを強調する独特な口調で語られている。  
絵も、おひめさまは無表情な美少女で、おとなた

ちは醜く異様な雰囲気を感じている。王さまは、豪華な衣装に身を包んだ無力な悩める父親として描かれている。

3. 今江祥智訳 宇野重喜良絵 サンリオ出版 1976年  
「2」と同じ訳者と画家による小型の絵本である。テキストは「2」とほぼ同じ。絵は、「2」の「イラストレーションに色をつけたり、新しく描きくわえたりで、…新しく生まれ変わりました。」（「著者のことば」より登場人物の性格がさらに強調され、風刺的性格が強くなった。
4. 今江祥智訳 宇野重喜良絵 ブックローン出版 1989年  
「2」と「3」と同じ訳者および画家が、三度目に試みた絵本である。頁数はかなり減っているが、「3」と比較すると、形態の点からは一般的な絵本に近くなった。しかし、テキストは変わっていないのに絵が描き換えられて、さらに風刺が強くなった。
5. 中川千尋訳 徳間書店 1994年  
もっとも新しい訳本であるこの絵本は、「サーバーの生誕百年にあたる今年、アメリカで出版されたものと同じ形で」（「訳者あとがき」より）出た。1949年の光吉訳と同じく、「風刺の利いたユーモア」がただようが、スロボドキンが描いた原書の絵のレノアひめの愛らしい雰囲気にあった日本語で語られている。

#### 考察

これらの5種の翻訳本は、同一の作品でも読み方によって解釈が異なることを示唆している。その解釈を別の言語と絵によってあらためて表現した場合、それは翻訳と違ってよいのではなかろうか。

言語学者のロマン・ヤコブソン (Roman Jakobson, 1896~1982) は、翻訳の方法を三種類あげている。

- 1) 言語内翻訳、すなわち、言い換え rewording。ことばの記号を同じ言語の他の記号で解釈することである。
- 2) 言語間翻訳、すなわち、本来の翻訳 translation。ことばの記号を他の言語で解釈することである。
- 3) 記号法間翻訳 intersemiotic translation, すなわち、移し換え transmutation である。ことばの記号をことばでない記号体系の記号によって解釈することである。文学作品の映画化などがこれに当たる。『たくさんのお月さま』の場合は、英語から日本語という異なった言語間で翻訳が行なわれている。翻訳例

の「1」と「5」は言語のレベルのみの翻訳であるが、「2」「3」「4」は言語だけでなく絵という異なったコードに移し換えた例である。ここで興味深いのは、サーバーの原書がテキストだけの短篇として出版されたのではなかったことである。三度とも同じ画家によって、しかも絵を描きかえて出版したことは、新たな日本語のテキストに原書のスロボドキンの絵よりも、宇野の絵がよりこの話にふさわしいという判断があったという推測をしてもよいことであろうか。

原書の絵を描いた彫刻家であるルイス・スロボドキンは、コルデコット賞受賞スピーチで『たくさんのお月さま』にどのようにして絵をつけたかを語っている

"Since I had no contact with the author and worked only from the manuscript, I then had to conclude and interpret my characters, background etc. The manuscript was short, there were no descriptions of the main personalities or the settings.

Take our princess... nothing less than the moon would suit her, and she kept a number of grown-ups racing about to satisfy her whim. one might draw a nasty little brat.

But then she might be just a little girl (incidentally a princess) who ate just a little too much, say half a tart. A little girl, a little stomach, a little spoiled, and timidly being just a little difficult - because she already knew the answers... I felt that, since she was our heroine and heroines should arouse sympathy, it was best to present her so.

(Caldecott Medal Books; 1938 - 1957, The Horn Book, Inc., 1957, P.107)

多くの人に受け入れやすいイメージのおひめさまを描いたことによって、スロボドキンの絵本はサーバーの辛辣な風刺を漂わせて苦いユーモアを、温かみのあるお伽話に変えたのであろう。

一方、宇野のおひめさまは、現実感を欠いていることによって、わがままであることが反って少女らしい魅力を増すことになっている。しかし、多くの子ども3の読者に受け入れられる絵本かどうかは疑問が残る。

現在、絵本は書物という形態をとった総合芸術であると考えられている。したがって絵本の翻訳には絵だけでなく紙などの物質的な条件を含めた原書との一体性と再現性が求められている。だが、翻訳が解釈の表現という考え方からは別の試みも可能かもしれない。